

## 2019 年度活動報告

### 【放射能測定事業】

2019 年度は、セシウム 134、セシウム 137 の低線量測定の向上を目指し、ゲルマニウム半導体検出器を導入しました。 taraちねでは、子どもたちが食べる食品の測定を日常的に実施しています。ゲルマニウム半導体検出器の導入により、これまでよりも低い測定値を検出できるようになりました。それは、わずかな放射性物質も子どもたちの口には入れたくないというお母さんたちの要望に応えることに役立ちます。

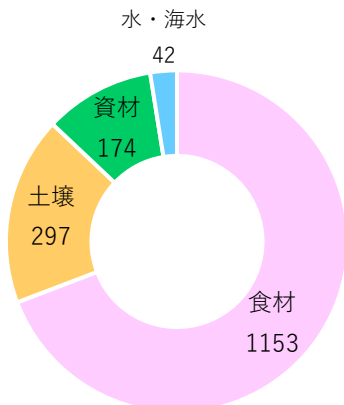
危険を見つけることと同じように、安全を確かめ、自信を持って衣食住を支えることは、家族の健康を守る母親たちにとって重要なことです。

また、一般に測定が難しいストロンチウム 90 の分析法をイラストと丁寧な説明文で示した絵本を出版しました。日本には、まだまだ多くの原発があり、いつ事故が起きるかわからない状態です。この絵本により、国内で放射能の測定をする多くのみなさんに測定法を知っていただくことができるようになりました。2011 年 3 月 11 日に原発事故災害が起きた時、放射能について何も知らなかった私たちは、とても恐ろしい思いをしました。そして人々の心が分断されてしまいました。同じことを繰り返さないよう、事故が起きる前から備えることが必要です。そのことを、より多くの人々と協力し構築することが重要だと考えています。

オリンピックの前年である 2019 年度は双葉郡の立ち入りの解除も促進され、子どもたちが高線量の場所で活動することも多くなりました。放射能は測らなければ可視化できないので、測定し危険があることの注意喚起も積極的に行いました。

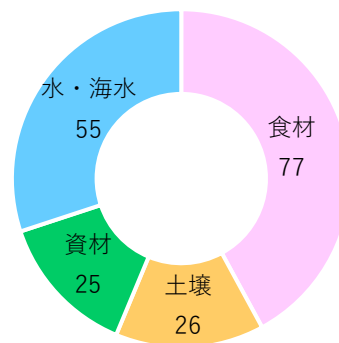
### ○2019 年度測定件数 ガンマ線・ベータ線

#### ガンマ線 総検体数 1,666 件



#### ベータ線 総検体数 183 件

(トリチウム：55 件、ストロンチウム 90：128 件)



○高線量地域の汚染調査

- ・空間線量の高い地域の測定結果（双葉郡富岡町総合スポーツセンター）

測定試料		苔	苔	アスファルト
採取場所		テニスコート脇 アスファルト	サード側 応援席入口周辺	ふれあいドーム外
空間線量		0.90 $\mu$ Sv/h	0.62 $\mu$ Sv/h	0.62 $\mu$ Sv/h
測定結果	Cs137	77,700 $\pm$ 15,500	15,000 $\pm$ 3,000	8,180 $\pm$ 1,640
	Bq/kg	Cs134	4,880 $\pm$ 1,040	1,100 $\pm$ 240



・保護者からのコメント

●富岡運動場の空間線量数値を見て、国が示している毎時 0.23  $\mu$ Sv 以上の箇所が多数あることにとっても衝撃を受けました。しかも、1  $\mu$ Sv に近い数値が出ているにも関わらず、子どもたちが普通にそこでスポーツをしている話を耳にし、目に見えない分今後、子どもたちの体にどのくらい悪影響を及ぼすのだろうか、心配でなりません。国は表面上安全な数値だけを見て、避難解除指示を出しているのかもしれませんが、すでに生活拠点となっている地域の中でも高線量箇所はまだたくさんあるということに改めて気付かされました。これからの子どもたちが、安全で安心して生活できるよう今度も正しい細かな情報を発信してほしいです。(40代 母親 子ども2人)

●空間線量のみを目安に外遊びしてきたことに後悔しています。ここで競技する子どもたちはもちろんですが、応援にくる幼い子どもたちが高線量の場所で遊んだり、座っておやつを食べたりしているというのが悲しいです。空間線量が低いから、問題ないから大丈夫という認識ではいけないということを一人でも多くのお母さん達に分かってほしいです。(30代 母親 子ども2人)

○子どもの活動の場の測定

測定試料	採取場所	測定結果(Cs137+134)
土壌(滑り台下)	いわき市	1,090 Bq/kg
土壌(ブランコ下)	郡山市	258 Bq/kg
落ち葉	いわき市	120 Bq/kg
松ぼっくり	いわき市	301 Bq/kg

○海洋調査結果



・いわき市漁業協同組合、ボランティアさんの協力を得て本年度は4月と11月の2回実施。

第13回 4月17日

福島第1・2原子力発電所 1.5 km沖

第14回 11月27日

富岡港・福島第1原子力発電所 1.5 km沖

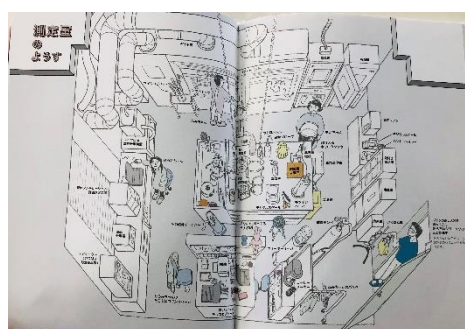
第13回海洋調査 海水測定結果		セシウム137		トリチウム		ストロンチウム90	
		測定結果	検出下限値	測定結果	検出下限値	測定結果	検出下限値
福島第二原発沖	A地点 表層	不検出	0.017	不検出	1.98	不検出	0.0025
	A地点 下層	0.019±0.010	0.017	不検出	1.98	不検出	0.0015
福島第一原発沖	B地点 表層	不検出	0.017	不検出	1.98	不検出	0.0016
	B地点 下層	不検出	0.017	不検出	2.02	不検出	0.0014
	C地点 表層	不検出	0.016	不検出	2.02	不検出	0.0014
	C地点 下層	0.019±0.010	0.017	不検出	2.02	不検出	0.0014

○ゲルマニウム半導体検出器の導入

測定できる放射性核種は、従来の NaI シンチレーションカウンターと同じですが、エネルギー分析能力・放射性核種を分別する能力がとて高く、誤検知してしまう可能性も少ないです。NaI シンチレーションカウンターと比べると測定下限値も低くなります。



○ストロンチウム 90 測定法の書籍出版



## 【甲状腺検診事業】

2019年度も各地に出張し甲状腺検診を行いました。

2013年の開始から、毎年の検診希望者は減少の傾向ですが、4月から進学や就職で親元を離れる子どもの検診を行なっておきたいなど、足を運ぶ人々の強い思いは変わらないと感じます。

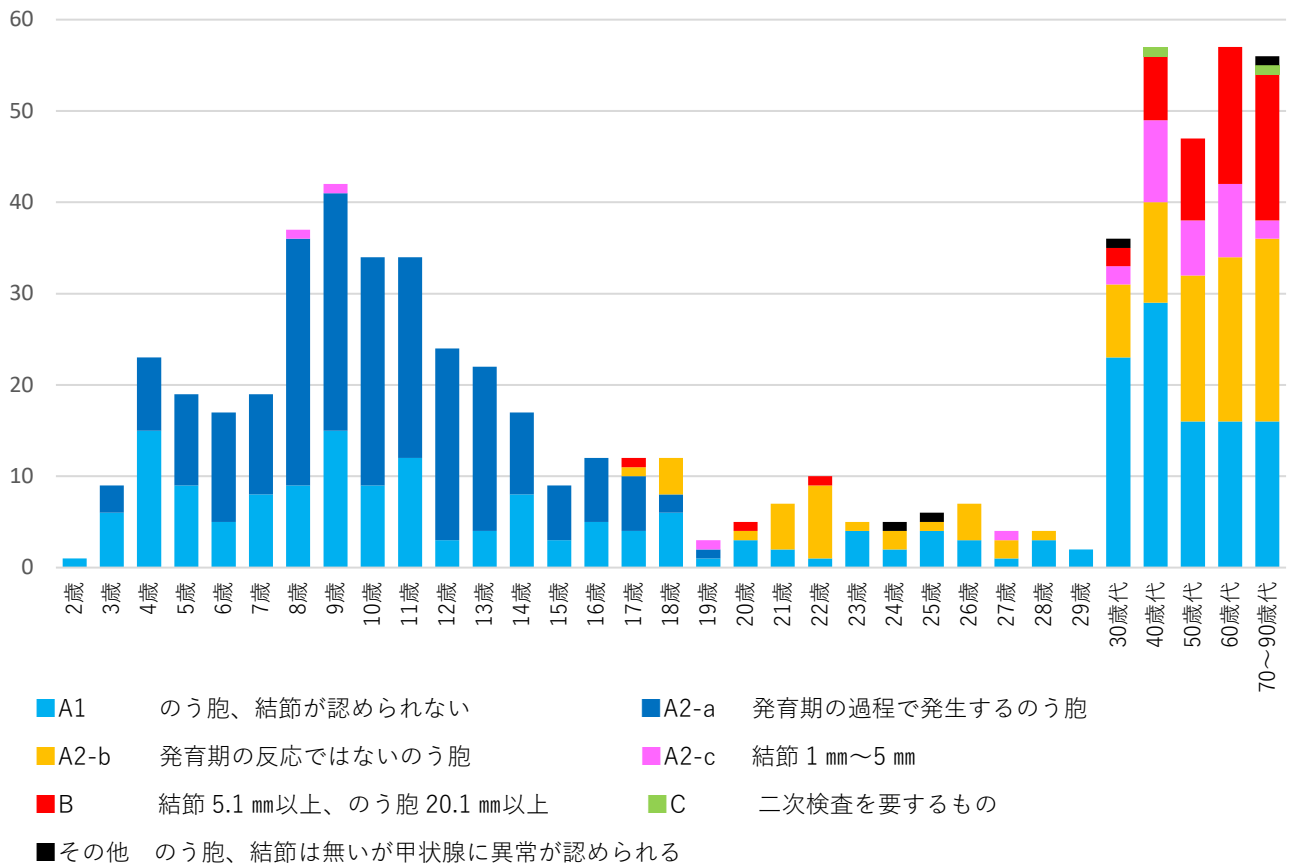
また、双葉郡から避難している人々の生活基盤が落ち着いてきて、今後、自分の子どもの健康の見守りをどうしていったらいいかなどを考える時期となっております。その中で、たらちねの甲状腺検診を選択する人もおります。

協力のボランティア医師のみなさんの努力も大きな力を発揮し、中通りや南相馬、北茨城、宮城県南部など遠方の地域でも毎年の実施を待っていてくれる人もいます。人々が、心安らかに安心して受けられる検診の存在は大切なものであり、今後も継続していきたいと思えます。

### ○2019年度検診実施一覧

検診日	場所	人数	担当医
2019年4月13日	いわき市平窪公民館	23	野宗先生
4月21日	いわき市北好間団地集会所	37	藤田先生
5月18日	宮城県角田市民センター	51	小野寺先生
5月26日	いわき市四倉公民館	24	藤田先生
6月22日	宮城県白石市中央公民館	47	藤田先生
6月23日	宮城県白石ふれあいプラザ	58	藤田先生
7月6日	田村市まちこちゃんの店	21	藤田先生
7月7日	福島市チェンバおおまち	21	須田先生
8月24日	たらちねクリニック	16	野宗先生
8月25日	山形県米沢市青空保育園たけの子	25	藤田先生
9月7日	郡山投げあい処空間	21	藤田先生
9月16日	宮城県亘理町中央公民館	52	藤田先生
10月26日	パルシステム東京本部	26	藤田先生
10月27日	パルシステム東京本部	58	藤田先生
11月3日	郡山コスモス通り教会	23	藤田先生
11月16日	パルシステム東京三鷹会場	31	小野寺先生
12月7日	二本松福祉センター	17	藤田先生
2020年1月13日	サンライフ南相馬	37	藤田先生
1月26日	北茨城市中郷町多目的集会所	54	藤田先生
2月22日	たらちねクリニック	12	野宗先生
合計	20回	654人	

○年齢別検診結果 受検者年齢 2歳～93歳 合計 654人

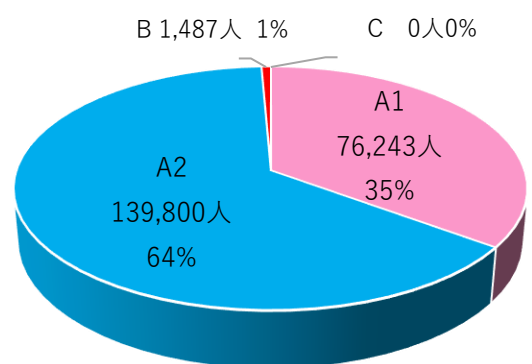
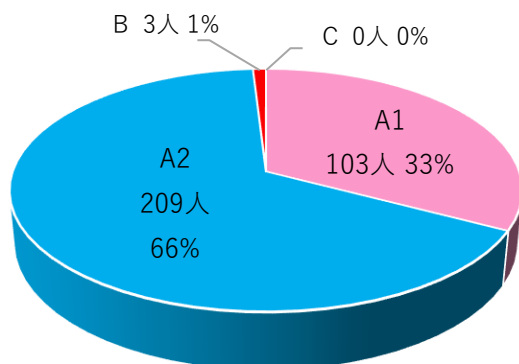


○福島県健康診査との比較図

検診対象者 1992年4月2日～2012年4月1日生まれ

たらちね甲状腺検診 315人

福島県民健康調査 217,530人



【クリニック事業】

2019年度はレントゲン室を設置しました。2017年の開院以来、利用する患者さんも増え、一般健康診断などの要望も増えてきました。レントゲン室があることで一般健康診断が実施できるようになりました。また、肺炎などの診断にも役立ちます。

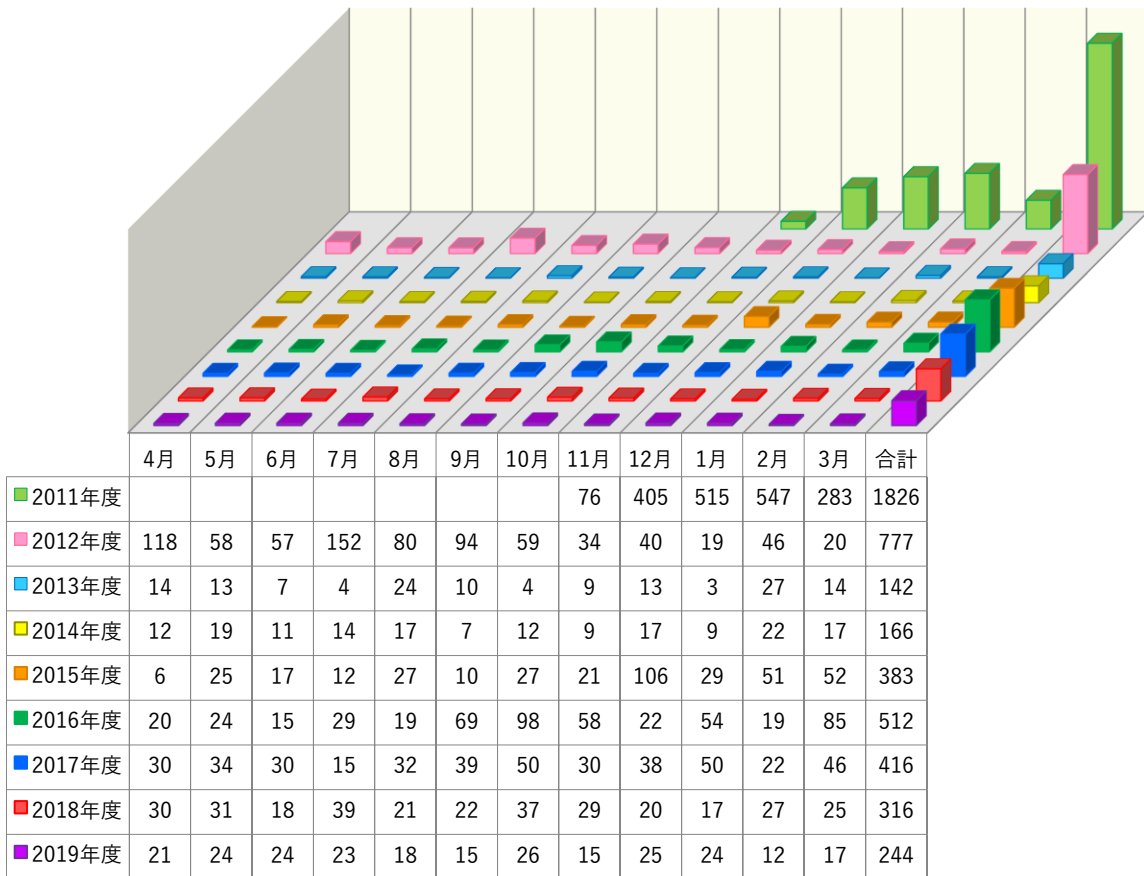
2019年度から、ホールボディカウンターによる人体内の放射能測定をクリニックで実施することになりました。双葉郡の立ち入り解除にともなって、高線量地域で仕事をされる人々が増え、人体の放射能測定を利用しながら診療を利用する姿も増えてきました。

子どもドックを定期的にご利用し、健康の見守りに役立つ利用者も定着してきました。さらに、お子さん向けのプレイルームが充実したことにより、体調が悪化したお母さんが、子ども同伴で点滴を受けることができるなど、たらちねクリニックならではの利用のしやすさも喜ばれています。

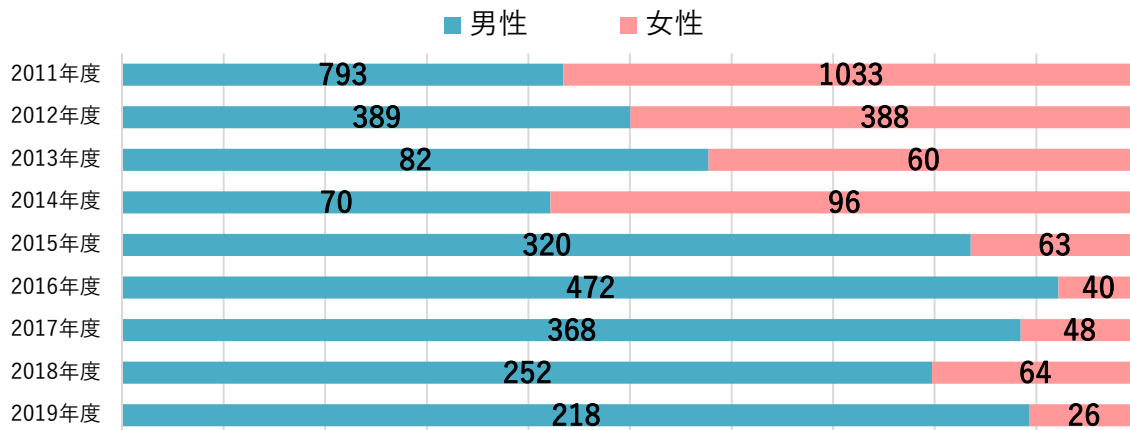
原発事故由来の不安を抱える母親の利用も多く、医師に気兼ねなく不安を話すことができる「なんでも話せるから安心です」という声も頻繁に聞かれました。患者さんがリラックスして通院できる雰囲気を、院長はじめスタッフ一丸となり守っています。

○ホールボディカウンター受検者数








総受検者数 4,782人



○ホールボディーカウンター受検者内訳



○子どもドックメニュー

検査項目 ※希望する項目のみを受けることもできます	自己負担で検診を受ける場合	全国の皆さまからのご支援を受けて検診を受ける場合
<b>診察</b> ・内科診察 		
<b>甲状腺超音波(エコー)検査</b> ・のう胞や結節などの有無を調べます 	3,500円	無料
<b>ホールボディーカウンター(WBC)</b> ・全身の放射能測定(5-15分間)	無料	無料
<b>尿中セシウム測定</b> ・自宅で2ℓの蓄尿が必要です 	4,000円	無料
<b>身体計測・生理学的検査</b> ・身長 ・体重 ・視力 ・聴力 ・血圧 	5,260円	無料
<b>血液検査</b> ・末梢血液一般 ・FT4 ・CRP ・ALT ・カルシウム ・クレアチニン ・ナトリウム及びクロール ・CK ・LD ・Tcho ・HDL-C h ・中性脂肪 ・末梢血液像 ・TSH ・AST ・血糖 ・ヘモグロビンA1c ・BUN ・UA ・カリウム ・BIL/総 ・γ-GT ・ALP 		
<b>尿一般検査</b> ・比重、PH、蛋白、糖、ウロビリノーゲン、潜血		
<b>心電図</b>	1,300円	無料
合計	<b>14,060円</b>	<b>無料</b>

※採血などの検査を怖がるお子さんには、実施できない場合もあることをご了承ください。

※肺呼吸機能検査も受けることができます。

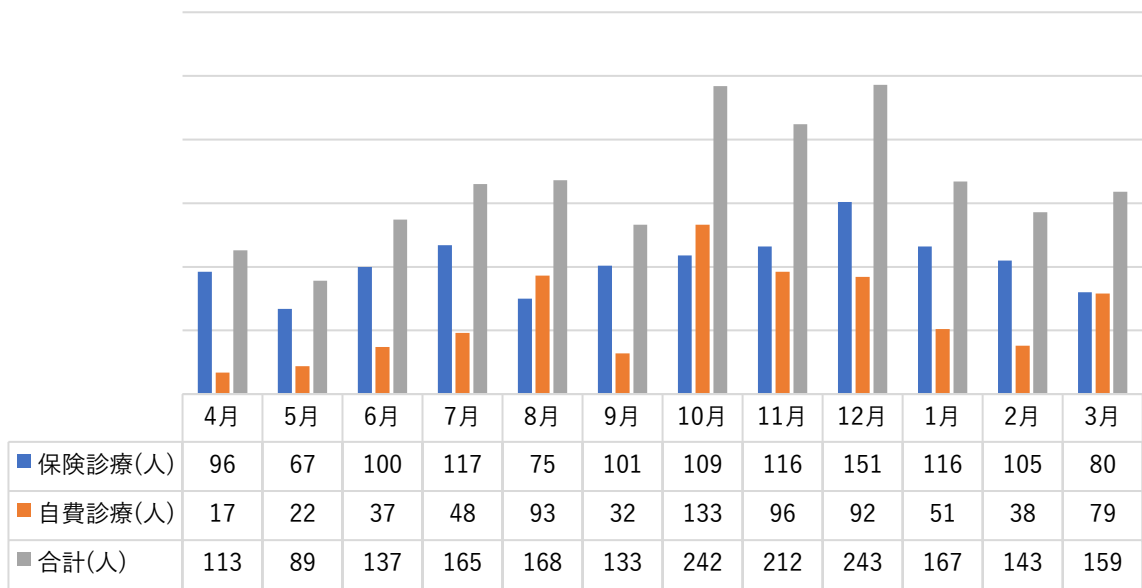
※こころのケア(看護師/スタッフとの相談)も受け付けております。

一般的な血液検査は**肝臓、腎臓、貧血、炎症反応**などを調べます。

たらねクリニックの血液検査は上記の項目に加えて**甲状腺ホルモン**なども調べます。

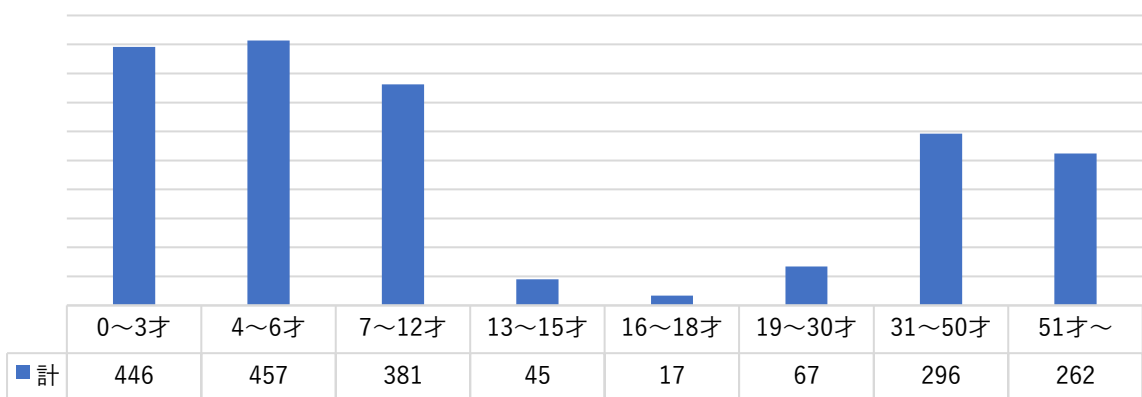


○患者利用数



合計 1,971人

○年齢別患者数



合計 1,971人



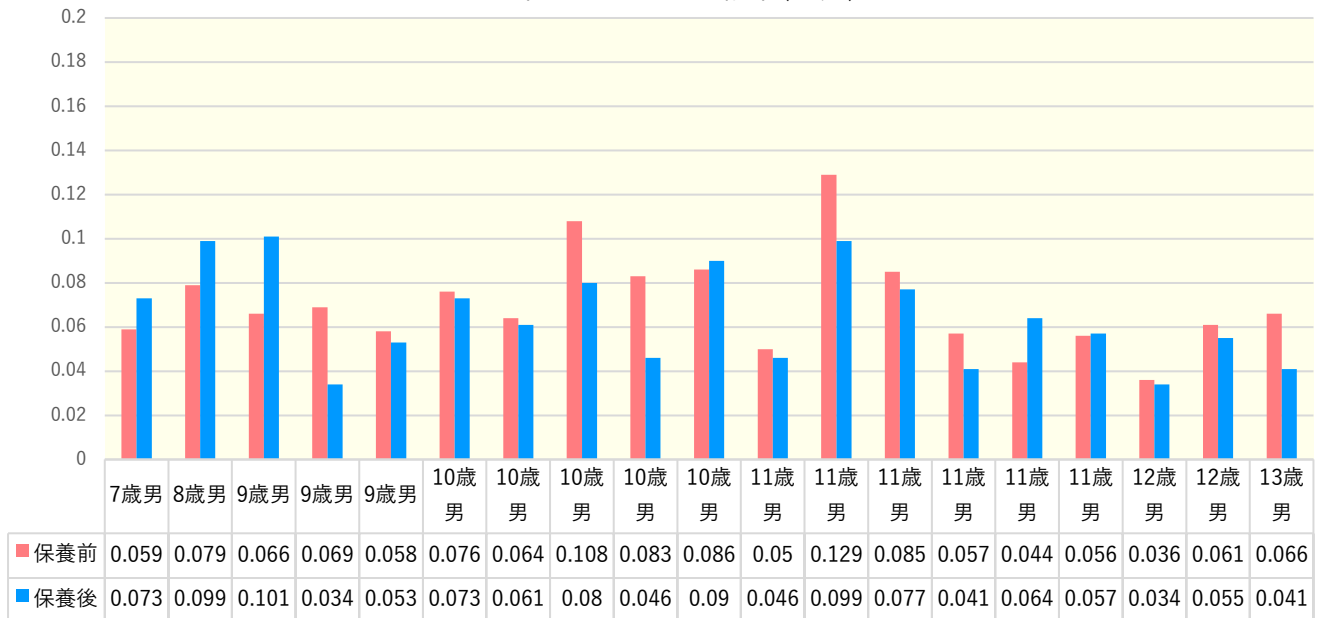


○男女別尿中セシウム測定結果

測定対象者：沖縄・球美の里子ども保養プロジェクト参加者

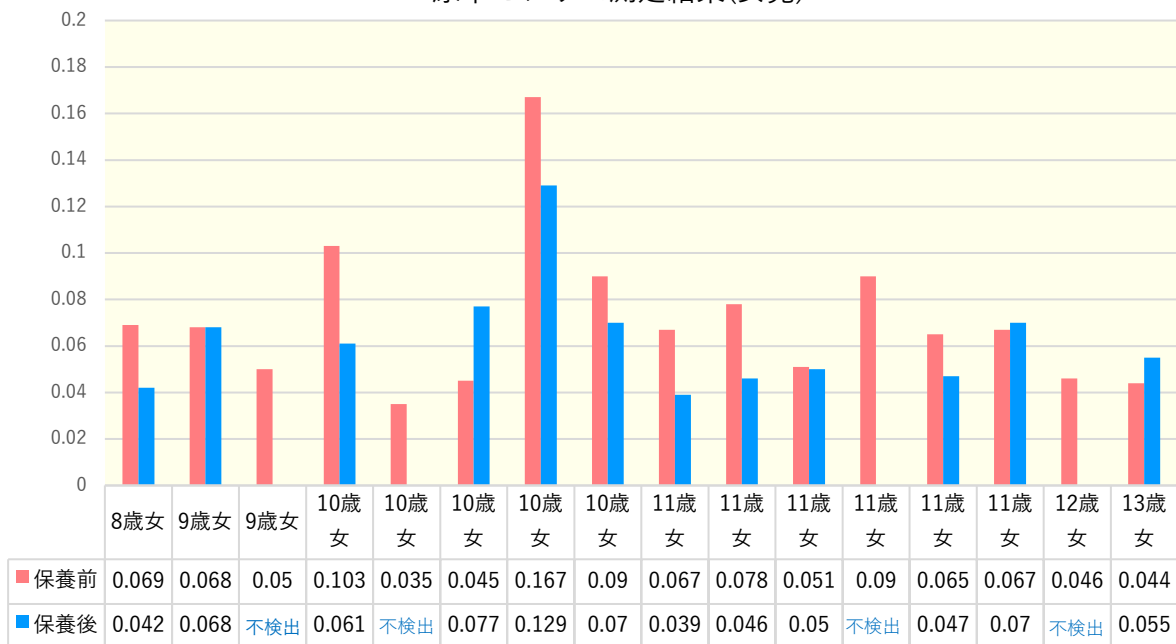
保養期間：18日間(2019年7月～8月)

尿中セシウム測定結果(男児)



Bq/kg(セシウム 137+134)

尿中セシウム測定結果(女児)



Bq/kg(セシウム 137+134)

### ○クリニック利用者の声

- ・事故当時、県外に住んでいた子たちも無料で受診できたことを心から感謝しています。  
(30代女性)
- ・測定から保養、診察までを皆さんに見守ってもらえることは、とても心強いです。(40代女性)
- ・話題に出すことをためらっていた話をスタッフの方が真剣に聞いてくれました。誠実さが伝わり安心して本音を話すことができました。(30代女性)
- ・全国に震災を忘れずに支援を続けている方がいてとてもありがたいです。自分たちも負けずに前を向きます。(20代男性)
- ・院長先生の病院なら行く！と子ども達もたらちねに行くことを楽しみにしています。  
(20代女性)

### 【保養事業】

2019年度は、沖縄・球美の里の保養送りだし事業に加え、イタリア在住の日本人有志が立ち上げたオルト・ディ・ソーニの転地保養プログラムとの協働も行いました。その後、パートナー団体として締結し、今後も継続的にイタリア転地保養への送りだしを実施していきます。

この、二つの保養事業は、それぞれに特徴があり、利用者のニーズに合わせて対応することができます。

恵まれた自然の中での転地保養は、原発事故による環境汚染が原因で、のびのびと自然体験をすることができなくなった子どもたちの心の解放に役立つものであり、さらに、たくさんの遊びで体を動かし体力の増進にも役立ちます。

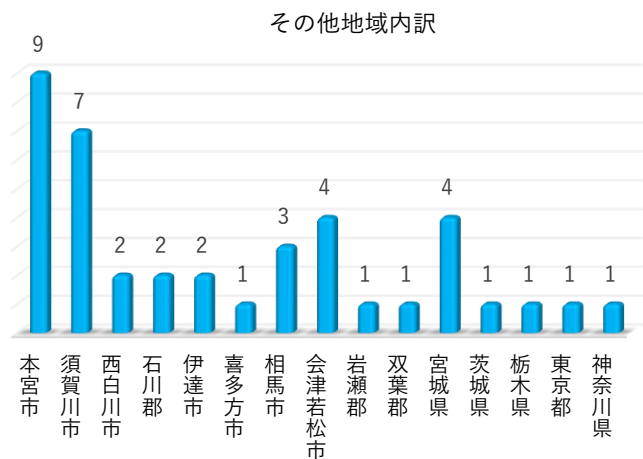
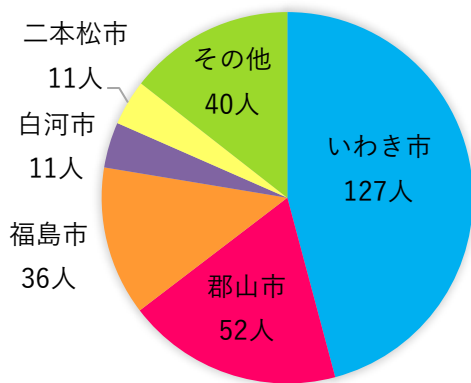
また、保養前後の尿中セシウムの測定を実施し、体内に蓄積されたセシウムの排出量の確認も行なっております。保養の効果を数値で示し、実感することができます。



○沖縄・球美の里子ども保養プロジェクト参加人数

保養回数	保養期間	子ども	大人	合計
104回母子保養	4月14日～4月21日	12	8	20
105回母子学童	4月25日～5月2日	24	9	33
第1回パパママ保養	5月23日～5月26日	12	9	21
106回母子保養	6月19日～6月28日	15	9	24
107回学童保養	7月20日～8月8日	35		35
108回学童保養	8月15日～8月23日	50		50
109回母子保養	10月23日～11月1日	15	7	22
110回母子保養	11月7日～11月16日	21	11	32
111回母子保養	11月26日～12月5日	27	6	33
112回学童保養	12月26日～1月8日	28		28
第2回パパママ保養	1月15日～1月18日	12	9	21
第3回パパママ保養	1月29日～2月1日	13	9	22
113回母子保養	2月12日～2月21日	13	11	24
114回母子保養	3月3日～3月12日	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、中止		
115回学童保養	3月24日～4月2日	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、中止		
合計	開催数 15回	277	88	365

○沖縄・球美の里子ども保養プロジェクト 参加者地域内訳



○保養参加者の声

・最初はドキドキだったけどとても楽しく過ごせて嬉しい思い出になった。ボランティアさん、スタッフのおかげです。(学童保養参加 小学3年女子)

・一言では言えないけれど沖縄ならではのイベントやものが沢山あっていつまでも居たいと思った。(学童保養参加 小学5年女子)

・安心、安全な環境が守られた中で様々なプログラムを経験できることこんなにも幸せなことはありません。日々感謝の毎日でした。子どもが目を輝かせて生き生きと自然にふれる姿や笑顔がみられて、とても嬉しかったです。私自身も穏やかな時間の中で久しぶりにじっくり子どもがみられてとても嬉しかったです。(母子保養参加 30代母)

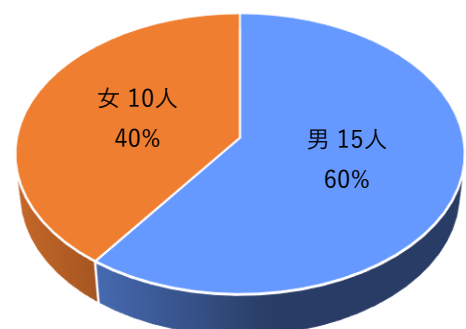
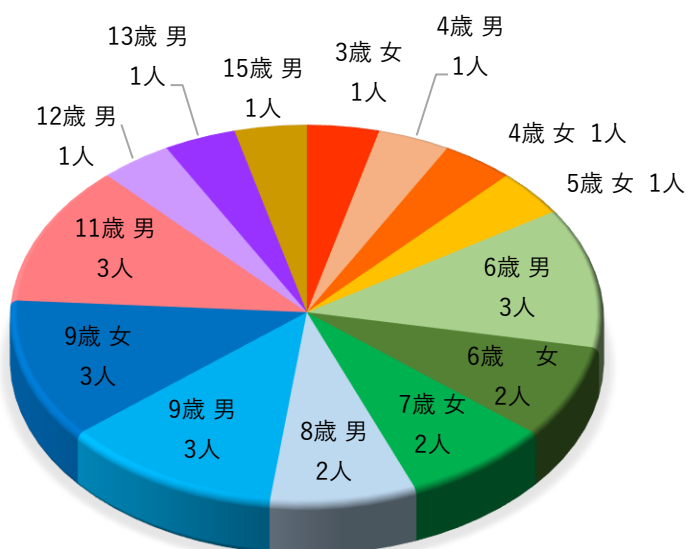
・震災の話をする機会がなくまだ傷が癒えずにいることが「取り残された感」となってさらに深く不安がつきまとう気がします。震災当時の話をもっと沢山聞いたりする機会ができればいいなと思います。そういった意味でも保養は同じ不安を持つ方々と話すことができるいい機会だと思うので、親の不安が解消されることで、子どもへの対応も優しくなれるし、年代の違う方と話することで視野も広がり、とても有効なワードプレイスだと感じました。(母子保養参加 30代母)

### 【こころのケア事業】

あとりえ・たらちね では、2019年から子どもたちのこころのケア事業を実施しています。ボディワークを中心とした非言語のマッサージや、箱庭、粘土、絵画などの遊びから子どもの元気を活性化させるメニューを準備しています。精神と心理の専門家のサポートのもと、原発事故災害で生活が大きく変化した子どもたち、そしてその母親たちのこころのケアを中心に事業を展開しました。

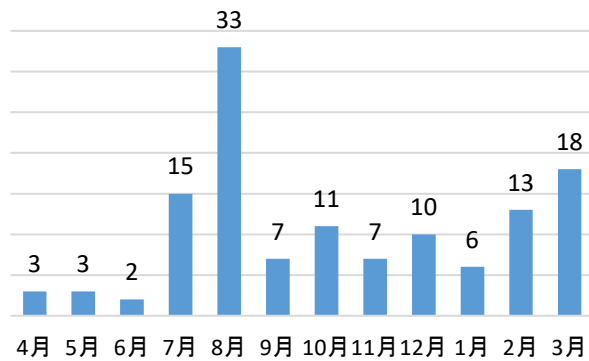


### ○利用者年齢・男女内訳

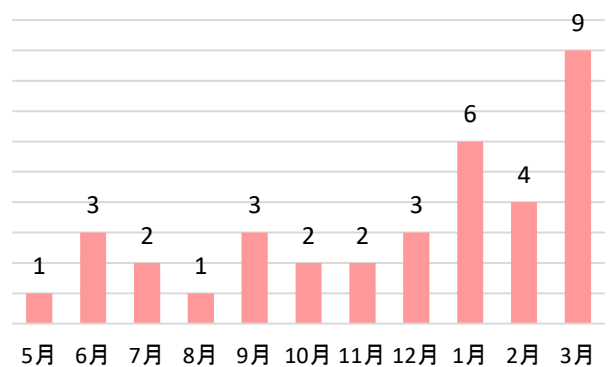


## ○月別利用・相談件数

子ども利用者数 128人



保護者面談・相談数 36件



## ○利用者の声

### 子ども

- ・ワルンペに来る日の朝は、早くおきれるよ
- ・自分の思いを言葉にできるようになったよ
- ・今日は何して遊ぼうか、家で考えてきたよ
- ・いつもあつという間に終わっちゃう

### 保護者

- ・毎回楽しみにしている子どもの様子に、嬉しく思います
- ・ワルンペを利用した日は、家に帰ってからも落ち着いて過ごさせています
- ・子どもと同じくらい、私もワルンペで過ごす時間があって安定しています
- ・改めて子どもと向き合う時間を大切にしたいと思います

## 【たらちね健康調査プロジェクト】

2019年5月から開始した調査事業です。

被曝の影響が人々にどのような影響を与えているか、それを人々はどう実感しているかを当事者から聞き取ることから始めています。

2011年3月11日の福島原発事故災害の被害の実状について知るために、双葉郡で生まれ育ち、結婚もし、生活していた人々に話を聞くうちに、それ以前から健康被害が顕著であったことが見えてきました。

白血病や骨肉腫の多い地域があることを、人々が同じ町村に居住しながら実感していることがわかりました。また、この事業は身体健康調査だけでなく、長い時間をかけて、人々の心の奥に積もり、体積していた心の声を吐き出し、それを聞く、という側面があります。住み慣れたコミュニティの中では感じる必要のなかった差別への恐怖や萎縮、そこにどう向き合って次世代に自

分たちのルーツを伝えるか、など様々な問題を当事者同士で語り、考え、生み出していく作業です。

当初は、大規模病院などの統計データを中心に被害の実相を調べる計画でしたが、被曝による健康被害は、他の化学事故の被害と違い、これという特徴のあるものはなく、データからの抽出が困難であることから、地域の人々に話を聞くという方向転換をしました。これにより、この事業は、データだけではない、人の心の奥に触れ、当事者同士が検証していくという、とても大切なものを見出しました。

作業による資料はプライバシーの問題などあり、取り扱いが難しく、2019年度は整理するまでに至りませんでした。今後、時間をかけて、公開できる形に整える予定です。

この事業の結果は、子どもたちに伝えなければならない、大変重要なものになると考えています。

### 【講演会・勉強会】

大きな災害が起きた時、家族や子どもたちの身の安全を守るために知っておかなければならないことがあります。2011年3月11日の東日本大震災では、放射能に対する知識がなく、私たちは本当に苦労しました。また起きるかもしれない地震、津波、原発事故災害に備えて、たらちねでは勉強会や講演会を開催しています。子どもたちに伝えていくために、被災者としての学びを大切にしています。

また、同時に子どもたちのこころを育てる分野の学びの会も実施しています。

### ○講演会・勉強会開催一覧

2019年7月26日

子どもの安定感を引き出す遊びの力

講師：本田涼子



2019年12月9日

子どもを育てること～知るから実行へ

講師：徳山幸江

2019年12月12日

食と放射能に関する説明会

講師：堀まゆみ



2020年1月12日

こどもシンポジウム

講師：渡辺久子

2020年2月23日

たらちね勉強会

【イベント】

2019年12月13日

土田英順東日本大震災チャリティコンサート in Iwaki

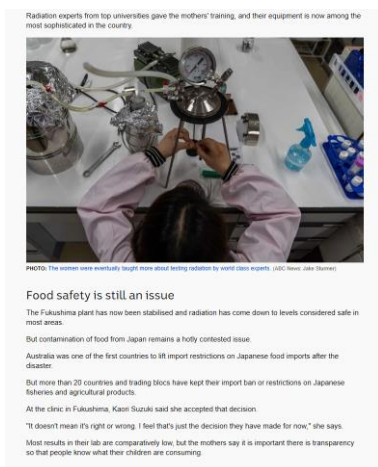


○SNS フォロワー数

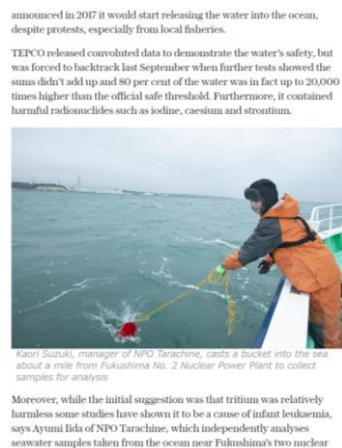
- ・ フェイスブックフォロワー数 13,784人(3月末時点)
- ・ Instagram(インスタグラム)フォロワー数 537人(3月末時点)
- ・ たらちねアプリ登録者数 405名(3月末時点)

○メディア掲載情報

- ・ 2019年4月号～2020年1月号 月刊りい〜ど 放射能レポート連載
- ・ 2019年5月 オーストラリア放送協会
- ・ 2019年5月 福島民報
- ・ 2019年7月 政経東北
- ・ 2019年7月 The Telegraph オンラインニュース(イギリスの新聞)
- ・ 2019年9月号 食べもの文化
- ・ 2019年12月号 パルシステム わいわい シリーズ「明日へ そして前へ」
- ・ 2020年1月 パルシステム 放射能レポート
- ・ 2020年3月号 市民活動のひろば
- ・ 2020年3月号 月刊りい〜ど
- ・ 2020年3月 STV 札幌テレビ放送(ラジオ取材)



オーストラリア放送協会



The Telegraph

